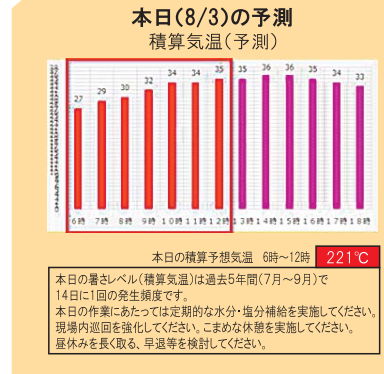
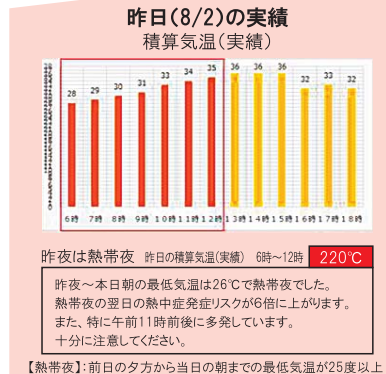


現場ごとに危険度予測

熱中症対策ツールを開発

※1 予測含む

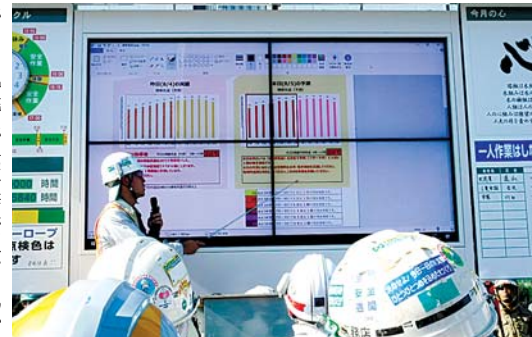
No	現場名	土建	地区	昨日実績		本日の予想												
						6時～12時		6時～12時										
						熱帯夜 (15～9時まで)	積算気温	最低気温	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	積算気温	最高気温	最低気温
74	大宮プライムイースト	安全	関東支店	220℃	26		27	29	30	32	34	34	35	221℃	36	26		



現場へのアラートメールの事例

鹿島、ハレックス

190	過去5年間(7月～9月)で2日に1回の発生頻度です。
200	過去5年間(7月～9月)で3日に1回の発生頻度です。
210	過去5年間(7月～9月)で5日に1回の発生頻度です。
220	過去5年間(7月～9月)で14日に1回の発生頻度です。
225	過去5年間(7月～9月)で65日に1回の発生頻度です。
230	過去5年間(7月～9月)で5年に1回の発生頻度です。



ツールを使って朝礼で注意喚起

熱帯夜の翌日の熱中症発症者数が、前日が熱帯夜でなかった日に比べて6倍以上になる相関関係も見いだした。解析手法などは特許出願中だ。これを踏まえ、積算気温190度で「過去5年間で2日に1回の発生頻度」、230度で「同5年に1回」といった6段階の熱中症危険度表を作成。ハレックスが保有する1キロメートルで気温などの気象情報を解析する技術を使って、緯度・経度を指定して現場ごとの毎時の積算気温を予測できる。

鹿島関東支店では、積算気温に依り、現場内巡回強化や作業の中止・中断の要否協議といった指導事項表も作成し、毎日2回、毎時の積算気温の実績・予想と熱帯夜情報とあわせてメールで全現場に送信している。現場では、WBG Tも勘案しながら、積算気温予想などを踏まえて作業員への注意喚起などを判断する。

埼玉県内の建築現場の所長は「本当に危険な時間を示して、休憩を多く取らせるといった指示ができるようになった」としており、「今後、作業員が積算気温と実際の暑さの度合いの整合性を実感できるようにすれば、個人で対応策を意識できるようになるのではないか」と期待を寄せた。

鹿島とハレックス(東京都品川区、藤岡浩之社長)は、気象情報を基にした新しい熱中症対策ツールを開発した。午前6時から午後12時までの1時間ごとの気温の合計(積算気温)と熱中症発症数の相関関係から、翌日や当日の危険度を現場別に予測・提示できる。鹿島関東支店管内の全現場に毎日の情報提供を始めた。

積算気温と熱中症発症数に相関関係

情報提供、注意喚起など対応